

今を生きる私達へ

昭和薬科大附属中学校一年 知念 由依

古びた紙には

筆で書かれた丁寧な文字

四人の名前が並んでいる

子ども達へ問いかける

戦場にいても変わらない

子どもを想うお父さんの姿がよみがえる

ミンナヒトツズツトシガフエタノデ

ヨイコニナラネバナリマセンヨ

オカアチャンニホメラレテイマスカ

シカラレテイマスカ

サムイデシヨウ

サムサニモマケナイヨウニナサイ

サヨナラ

激しい艦砲射撃や空襲が続く

水や食料も底をついた

所狭しに溢れる兵士の呼吸と

排泄物の臭気の漂う壕の中

新鮮な空気を吸うことさえできず

睡眠さえもままならない

それでもなお

家族に宛てた手紙を書く

毎日やりや銃を握る手は

家族を想い

手紙を書く手でもあった

でも本当に握りたかったのは

愛する家族の手ではなかったのだろうか

戦場で武器を握る兵隊も

誰かのお父さんで

誰かの子どもで

誰かの大切な人だった

帰りを待ってくれる人がいて

守りたい人がいた

戦争は奪った

その大切な人さえも

触れることも

声を聞くこともゆるさなかった

その最後を知ることさえもゆるさなかった

忘れないで

みんな愛する人を想っていたことを

忘れないで

家族に会えるのを待ち望んでいたことを

忘れないで

戦争で幸せは生まれないことを

忘れないで

忘れないで

あなたには

同じ思いをして欲しくないから

あなたには

平和な未来を生きて欲しいから

慰霊塔の前に立ち誓う

忘れない

八十一年前あなた達が

悲惨な戦争に巻き込まれ

悔しきで怒りの拳を握ったことを

忘れない

たくさんの尊い命が奪われ

今もお多くの傷を残していることを

忘れない

この平和が当たり前ではないことを

わたしは今を精一杯生きる

平和な未来を築くために

世界の人々と

手を握り合って